

競技上の注意

- (1) 小雨決行。試合の有無や日程の変更等は必ず本部（会場）で確認すること。
- (2) 試合前の練習はサービス（一人が左右2本ずつ）のみとする。
- (3) ファーストサービスの際は、セカンドサービス用のボールを身につけて行うこと。
- (4) プレーは連続して行われねばならない。プレーとプレーの間は25秒以内とする。
- (5) 団体戦では、試合の始めと終わりに両方のチームのメンバー（4～9名）および監督はサービスラインに沿って整列し、礼儀正しく挨拶を行うこと。
- (6) 体力消耗、痙攣等による試合中断は認めない。事故等による中断はレフェリーの判断による。
- (7) 選手・監督の服装はテニスウェアとし、全国高体連服装規定に基づく。
- (8) ボールパーソンは、シングルス各校2名、ダブルス各校1名を置くことを原則とする。
- (9) 選手は、試合中にコートを離れてはならない。
- (10) 今大会は MTO（メディカルタイムアウト）は適用しない。選手の健康と安全に対して万全を期すため「メディカルタイムアウトに関する基本的な考え方」に準じて対応する。
 - ①監督は選手の体調管理に責任をもって対処する。
 - ②無理をさせず、選手の将来を考慮してレフェリーがリタイアを促す。
- (11) 団体戦では、各校の初戦はすべての対戦を行う。それ以外の試合は3ポイント先取とする。試合の途中であっても3ポイント先取が成立した時点でポイント打ち切りとする。
- (12) マナーを正しくすること。
 - ①ファーストサービスとセカンドサービスの間は静粛にすること。
 - ②ベンチコーチ以外のコーチングは厳禁である。見つかれば次第、該当者は退場、コーチングを受けた選手は失格とする。
 - ③団体戦において、コートに入れるのは選手・競技委員・ベンチコーチ（団体登録の監督および選手に限る）のみである。
 - ④ベンチコーチは審判の判定に抗議することはできない。
 - ⑤ベンチコーチはエンドの交代時のみ助言をしてもよいが、60秒以内とする。
 - ⑥携帯電話等はコートに持ち込まない。やむを得ず持ち込む場合は電源を切っておくこと。
 - ⑦応援について
 - ・団体戦については、最初の試合が始まるまでは歌による応援を認める。
 - ・声出し応援を認めるが、当該コートの応援のみとし、隣のコートを応援することは禁止とする。
 - ・その場でジャンプしたり、フェンスに触れたりするような応援は禁止とする。
 - ・些細なことでも、選手に直接プレッシャーを掛けるようなことが確認された場合、当該試合の当該校は応援を禁止とする。
 - ・技術的戦術的な応援やその選手に直接アドバイスするような声掛け、またその声掛けに選手が反応するような場合はコーチングと見なし、応援した者は当該試合の応援を禁止とする。
 - ・コート1面全体を当該校1校で占拠することを禁止とする。
 - ・部旗等は試合の妨げにならないようコートの端につけることとする。
 - ⑧タオルや水筒等の選手の持ち物は、本部で籠を準備したときのみコート後方に持ち込むことができる。
 - ⑨クラブハウスの使用は原則禁止とし、トイレや自販機の利用のみでの使用とする。
 - ⑩会場内のすべての場所で、公式練習以外でのボールを使った練習は禁止とする。
 - ⑪頭髮の加工やピアス等の該当者の出場については本部で判断する。
 - ⑫その他マナーを逸脱する行為が行われた場合は、顧問を通して学校が責任をとること。
- (13) 今大会は JTA 公式トーナメント コードオブコンダクトに違反した場合、1度目は警告、2度目は失格とする。悪質な場合はレフェリーの判断による警告なしに失格とする。なお、一度警告・失格の措置を取られた者は今大会期間中に回復することはできない。